

# 水あそびの 危機管理

水あそびは楽しいけれど、事故が起きることがあるのも事実。子どもが安全に水に親しむために、園全体での危機管理が大切です。暑い時期に集中して行うことだからこそ、毎年初心に戻って、しっかりと安全対策を行いましょう。

イラスト：ヒカリン 写真：山本倫子



お話

国崎信江 さん  
危機管理アドバイザー  
危機管理教育研究所代表

本誌連載「子どもと保育を守る！ 園の防災・防犯」でもおなじみ。著書に『保育者のための防災ハンドブック』（ひかりのくに）など。



## どうして 危機管理が 必要なの？

海に囲まれた島国の日本で生活する上では、水害や海難事故から身を守るためにも、幼い頃から水に慣れ親しんでおくことはとても重要です。水あそびやプールあそびは水に親しむよい機会ですが、「あそび」という言葉から楽しいことだけがイメージされがち。でも、水でのあそびはリスクも伴います。例えば、溺死、子ども同士が衝突する事故、低体温症、プールを介して広がる感染症など、そのリスクは幅広いです。

こうしたリスクは、乳幼児とかわる保育者が気をつけるべきことです。水に親しむときには危険もあるという意識をもち、その上で準備や対策を徹底していきましょう。

内閣府・文部科学省・スポーツ庁・厚生労働省からは、毎年6月頃に「教育・保育施設等においてプール活動・水遊びを行う場合の事故の防止について」※を、各都道府県経由で各園に通知しています。水あそびの事故への危機管理が、それだけ重大だということですので。文書はホームページでも見られるので、プール開きの前に、管理職だけではなく全職員が目を通していきましょう。

※教育・保育施設等においてプール活動・水遊びを行う場合の事故の防止について（下記URLは、東京福祉保健局のホームページに掲載の令和3年6月17日版PDF）  
<https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/kodomo/hoiku/ninkagai/ninkagai-jigyousha/R030617.files/R030617-1.pdf>

## プール開き その前に

### 事故を未然に防ぐ準備と 緊急時のための 訓練が大切！

水であそぶときは皮膚の露出が多くなるので、ちよつとしたことでもけがをする危険があります。プール開きの前には、設備にひび割れや破損、

## 水あそびの「危険」を知って備える！

劣化、塗装の剥がれなどがなければ点検しましょう。ビニールプールは基本的に、国家規格である日本産業規格（JIS）を満たしている製品を使用し、こちらも破損などを確認してから使用します。

プール開きの前には、事故を防ぐためにも、水あそび・プールあそびのときのリスクや、監視態勢を確認する安全研修を行いましょう。過去の事故事例を知り、自園に潜むリスクや防止対策を考えるのもお勧めです。

また、熱中症対策として、タープなどで日陰を作るほか、活動の合間に水分補給することも忘れずに。

万が一の事故に備えて、119番通報を含めた緊急時の対応手順やAEDの使い方、心肺蘇生法などの、救急救命についてもしっかりと訓練しておきましょう。

### プール開きの前に！ ToDoリスト

- プールなどの設備の点検
- 園内での安全研修
- 心肺蘇生法やAEDの取り扱い、応急手当などの講習・訓練
- 緊急時の対応手順の確認・訓練
- 監視態勢の確立
- 子どもへの注意事項の説明

### 子どもと保育者「共通のサイン」を決めよう！

プール開きの前には、子どもたちに「プールサイドを走らない」「友達を推さない」「友達の上に乗らない」「プールの中でおしっこをしない」などのルールを伝えることも必要です。

子ども自身が自分の体調やほかの子の異変に気づくこともあるので、「寒いときは教えてね」「お友達のくちびるの色が紫のときは知らせてね」などと伝え、子ども自身が体調管理に意識をもてるようにしましょう。

また、水が気道に入ったときなどは、苦しくて声を出すこともできません。全員プールから出るときや苦しいときなど、いざというときに備えて、監視する保育者と子どもが共通で使えるサインを決めておくとう便利です。サインを子どもと一緒に考えるのもお勧めです。



さあ  
水あそび！

## 「水の衛生」を 管理する

清潔な水を使い  
水質によるリスクを回避

水あそび・プールあそびでは、水を介した感染症や低体温症などのリスクから子どもたちを守る必要があります。水あそびの実施期間中は、「水」の衛生管理を徹底しましょう。

文部科学省の『学校環境衛生管理マニュアル』(※)では「水泳プールに係る学校環境衛生基準」が示されていて、遊離残留塩素濃度、大腸菌、濁度などの水質の基準項目が設けられています。文部科学省のホームページで確認できるので、ガイドラインに沿って適切に水質や水温を管理しましょう。



### 水の衛生を守る！ チェックリスト

- 水は飲料水を使用し、生活用水(雨水など)は使わない
- 一度使った水は排出して取り替える。
- 大型プールの場合はガイドラインに沿って塩素を入れる
- 遊離残留塩素は1リットルあたり0.4mg以上、1.0mg以下が望ましい
- 大腸菌が検出されず、濁度は2度(水中でプール壁面から3メートル離れた位置から壁面が明確に見える程度)以下であること
- プールの中に小石や落ち葉、虫などの異物がない
- 水温は24℃くらいが適当(気温との差5℃くらいが望ましいが、その日の湿度・体感温度も参考に)
- 定期的に清掃する
- プール管理日誌をつける

### プールが小さくなるほど 衛生意識が薄れがち

何人も泳げるような大きなプールに比べて、家庭用のビニールプールのような「水あそび」の色が強いものを使うときは、水質や水温への意識が低下しがち。一度使った水は排出して水を入れ替えるなど、小さなプールやたらいなどでも、確実に衛生管理を行いましょう。

## 安全な水あそびを守る！ 「監視」の役割

浅い水深でも油断禁物！  
監視役を必ず設ける

浅いプールでは事故は起こらないと思いがちですが、たった5センチの水深でも、鼻と口が水没すると溺死するリスクがあります。事故を防ぐには、監視をしっかりと行うのが大事です。

園の多くで見られるのが、担任が一人で「保育」と「監視」を兼務していること。保育をしながら全体を見渡すことは困難なので、プールで一緒にあそぶ保育者とは別に「監視役」を必ず設けます。

監視役はプールの外で監視に専念し、異常を発見したらプール内にいる保育者に知らせます。子どものあそぶ声に遮られて監視役の声が届かないこともあるので、ホイッスルを用いると便利です。子どもと一緒に決めたサイン(P.27参照)も役立つでしょう。また、水の中でのあそびは疲労も大きいもの。ストップウォッチで時間管理を行い、月齢による時間調節は必

要ですが、20分くらいを目安にプールから上がるようにします。万が一の事故に備えて、プールのそばにはAED、緊急時対応や心肺蘇生法のフローチャート、連絡手段の携帯電話を準備しておきます。監視役の集中力低下や疲労を考慮した交代や、緊急時にも対応できる態勢も考えておきましょう。



### 監視役が 身に着けるもの

- ホイッスル
- 目立つ色の帽子・ビブス
- 時計・ストップウォッチ

### プールサイドに 置いておくもの

- AED
- 救急箱
- 携帯電話
- 心肺蘇生法や緊急時対応のフローチャート
- 暑さ指数計測器



### 知っておこう！ 乳幼児特有の水のリスク

- 乳幼児は体の重心の位置が高く、自分の体重を支える腕力もないので、転倒すると起き上がるのが困難。
- 面積の小さいプールで乳幼児が密集すると、ほかの乳幼児とぶつかって転倒の恐れがある。
- 乳幼児の場合、鼻と口が水没すると、姿勢によっては、食道ではなく気管内に水を吸引してしまう。
- 乳幼児は対処能力が未発達なため、気管に水が入ると体が動かなくなることもあり、自力で立ち上がるなどの対処が難しくなる恐れがある。
- 乳幼児の溺水は、短時間で事態が進行してしまう。
- 水深が浅い場所での水あそびで、腹ばいで下半身が床についた状態で向かい波をかぶると、体が弓なりになり、気道に水が入りやすくなってしまう。

参考文献：「プール及び水遊びマニュアル作成のための手引き」(公益社団法人京都市保育園連盟安全対策委員会)



### 子どもの危ない兆候！ チェックリスト

- 顔色が悪い
- くちびるが紫色
- 鳥肌がたっている
- 震えている
- 寒そうなくさをしている
- 動かない
- 不自然な動きをしている
- 活発だった子が急におとなしくなる
- 楽しんでいない



乳幼児期に水に親しむことは、子どもの発達を促すためにも欠かせません！ 大事なのは、子どもが安全に水に親しめること。園が一丸となって環境を整えましょう。

**溺れるサインや  
体調不良に  
すばやく気づく！**

人が溺れるときは、バシヤバシヤと  
もがいたり、声をあげて助けを求めた  
りというイメージをもっているかもし  
れませんが、でも、実際に溺れる人の多  
くは、助けを呼んだり手を振ったりす

ることなく、動かず静かに沈んでいき  
ます。その時間は、子どもならわず  
か20秒です。事故は一瞬で起きるので、  
監視を行う上では、子どもの危ない  
兆候を見逃さないようにしましょう。

水中でのあそびは体力を消耗する  
全身運動。さらに、屋外では紫外線  
を浴びることでの疲労もあるので、体  
調が急変したり、低体温症や熱中症  
になったりするリスクも伴います。ま  
た、子どもによつては、苦しくても「出  
ていいよ」と言われるまでは我慢しな  
いといけないと思ひ込み、自分から「出  
たい」と言えないこともあるかもしれ  
ません。監視の際は、子どもの表情  
や顔色、動きにも注視して、体調に  
異変がある子どもはすぐにプールから  
上がるようにしましょう。

### 「危ない」あるある！

#### 「楽しそうだから」 と時間を延長しがち

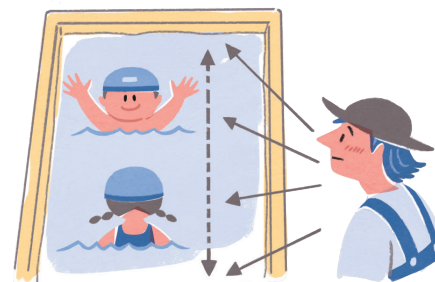
主的に、楽しそうにあそぶ子どもの  
姿を見ると、「あそびを中断すべきでは  
ない」と思うかもしれません。でも、水  
の中でのあそびは体力を消耗し、疲労度  
も大きいもの。子どもの体に負担をかけ  
ないように、ストップウォッチを使って  
制限時間を守りましょう。

## 監視時の注意ポイント

監視の仕方や監視時に見落としがちな  
ポイントを理解しておこう！

### Point 2 定期的に視線を動かす

監視役はプール全域をくまなく監視します。監視場  
所に近いところや浅い場所は「ここは安全だろう」  
と油断しがちですが、しっかりと監視しましょう。  
また、定期的に視線を動かしながら、監視エリアを  
監視することが大切です。さらに、水の衛生状態も  
監視を。子どもが排泄して水の色が変化していない  
か、時折確認しましょう。



### Point 4 最初から最後まで 監視に専念する

監視役は子どもたちの着替えや片付けなどは行わ  
ず、監視に専念します。準備に追われてプールへの  
到着が遅れている間に、子どもがプールに近づいて  
のぞき込むなどする恐れがあるので、監視役は必ず  
子どもより先にプールに行きましょう。また、終了  
後は子どもたち全員がプールから出るまで留まり、  
全員が出た後は、水中に残っている子どもがいなか  
かを指さし確認しましょう。



### Point 1 監視エリアに 死角や漏れをつくらない

監視役の配置は、死角をつくらないう、プールサ  
イドから1人と、プール全体を見渡せる高さの台や  
椅子の上、または園舎の高い場所から1人というよ  
うに、2人いるのがベスト。プールの広さに応じて  
人数を増やしますが、監視に漏れないように監視  
役同士でエリアの分担を決め、「誰かが見てくれて  
いる」という思い違いを防ぎましょう。交代時も子  
どもたちから目を離さず、その場で交代を。



### Point 3 「動かない」 「不審な動き」を見つける

不規則な水音や大声を出す子ども、不自然な動きを  
する子どもはもちろん、顔が水中に没したまま、もぐ  
ったままなど、動きの少ない子どもや急に動かなくな  
った子どもも要注意。いち早く見つけることが重要  
です。子どもたちの表情や顔色にも注意しましょう。

